

○平成30年度における御嵩町地球温暖化防止対策実行計画における点検結果について

項目	基準年度（平成28年度）		対象年度（平成30年度）		比較増減	
	使用量（ℓ）	CO2排出量（kg-CO2/年）	使用量（ℓ）	CO2排出量（kg-CO2/年）	使用量（ℓ）	CO2排出量（kg-CO2/年）
公用車（ガソリン）	31,216.87	72,423.14	29,971.15	69,533.07	-1,245.72	-2,890.07
公用車（軽油）	3,555.12	9,172.21	4,530.00	11,687.40	974.88	2,515.19
通勤車（ガソリン）	36,300.00	84,215.29	40,054.32	88,875.96	3,754.32	4,660.67
通勤車（軽油）	438.00	1,128.75	396.00	1,021.68	-42.00	-107.07
灯油	9,791.52	24,380.88	6,941.86	17,285.23	-2,849.66	-7,095.65
A重油	39,300.00	106,503.00	37,900.00	102,709.00	-1,400.00	-3,794.00

項目	使用量（kwh）	CO2排出量（kg-CO2/年）	使用量（kwh）	CO2排出量（kg-CO2/年）	使用量（kwh）	CO2排出量（kg-CO2/年）
電気	1,120,127.00	513,316.21	1,063,485.00	430,707.38	-56,642.00	-82,608.84

	基準年度（平成28年度）	対象年度（平成30年度）	増減		
CO2排出量合計	811,139.48	721,819.72	-89,319.76	対基準年削減率	11.01%

【平成30年度におけるCO2の排出状況】

基準年度である平成28年度は、全国的に冬季の気温が低く、気象庁の発表では西日本は32年ぶりの寒い冬であったと発表され、また、対象年度である平成30年度は、東・西日本、沖縄・奄美では、かなり暖かい冬であったと発表されています。そのため、冬季における暖房のための電気、灯油、A重油の使用量の差がCO2の排出量の削減に大きく影響したとみられます。

また、電気使用におけるCO2の排出係数が0.454～0.497から0.405～0.485と改善していることもCO2の削減要因となりました。

一方、公用車の運用においては、電車を利用した出張や相乗り出張の推進により、一般車の使用の抑制は進んでおり、ガソリンの使用量は減少していますが、軽油については使用量が増加しました。

通勤車両については、職員数の増減はほとんどないことから、採用者と退職者の通勤距離の差、職員の転居による通勤距離の増減が燃料使用量に影響したものと考えられます。